温室効果ガスの削減目標見直しに向けた検討

1 削減目標見直しの検討理由

本市の削減目標は、国が新たな地球温暖化対策に係る基本方針を打ち出した場合は 削減目標の見直しを検討することを留保したうえで設定されたものです。

国では、2013 (平成 25) 年の COP19 において従来の削減目標である『2020 年度に 1990 年度比 25%削減』を撤回し、新たな目標として『2020 年度に 2005 年度比 3.8%削減』を表明し、2015 (平成 27) 年の COP21 においては、日本の約束草案として『2030 年度に 2013 年度比 26%削減』を表明しました。

このことから,本市の削減目標の見直しについても検討が必要な状況となっているところです。

2 削減見込量(温室効果ガス削減ポテンシャル量)の算定

削減目標の見直しにあたり、省エネや節電等のエコライフに取り組むことなどにより、将来の温室効果ガス排出量がどの程度削減できるかという「削減見込量(温室効果ガス削減ポテンシャル量)」を算定しました。

これは、国や函館市の将来人口の推計や国のエネルギー最終消費量の見通しなどをもとに、本市の最新(2012(平成24)年)の温室効果ガス排出量を考慮し計画策定時と同様の方法により算定したもので、その結果を表1に示します。

	2020(平成 32)年度の削減見込量		増減
取組区分	計画策定時算定値	今回算定値	(B-A)
	(A)	(B)	
(1)「はこだてエコライフ」の	30,863t-C02/年	26,485t-C02/年	△4, 378
実践による効果			
(2)北海道地球温暖化対策推進	253,800t-C02/年	379,089t-C02/年	125, 289
計画の削減対策による効果			
(3)函館市の廃棄物関係の	2,775t-C02/年	2,775t-C02/年	0
取組による効果	2, 1150 002/ 4		
合 計	287, 438t-C02/年	408,349t-C02/年	120, 911

表 1 2020 (平成 32) 年度の削減見込量

取組区分ごとの増減理由は次のとおりです。

(1)「はこだてエコライフ」の実践による効果

計画策定時は2010(平成22)年度の市民アンケート調査結果をもとに2020(平成32)年度までの10年間の「はこだてエコライフ」の実践による効果を見込み、削減ポテンシャル量を算定していましたが、今回は2015(平成27)年度に実施した市民アンケート調査結果をもとに、2012(平成24)年度以降の8年間の「はこだてエコライフ」の実践による効果を見込み、削減ポテンシャル量を算定したことから、2年間

分の実践効果量(5,893t-C02)を控除したため、削減ポテンシャル量は減少となりました。

(2) 北海道地球温暖化対策推進計画の削減対策による効果

2014 (平成 26) 年 12 月に北海道地球温暖化対策推進計画が改定され、北海道の削減見込量が当初の 738 万 t-C02 から 975 万 t-C02 \sim 237 万 t-C02 増加したことから、本市の削減ポテンシャル量も連動して増加となりました。

(3) 函館市の廃棄物関係の取組による効果

短期目標年度である 2012 (平成 24) 年度の温室効果ガス排出状況を検証し、引き続き同様の取組による削減を目指すこととし、同値としました。

3 温室効果ガス排出量の将来推計

今後新たなエネルギー技術等が導入されず、機器効率が一定のまま推移することを 前提とした現状趨勢シナリオと、原子力発電所稼働の影響を考慮した排出係数改善シ ナリオについて、温室効果ガス排出量を将来推計した結果を図1に示します。

2020(平成32)年度の温室効果ガス排出量は現状趨勢シナリオで基準年比△9.4%ですが、排出係数改善シナリオでは基準年比△25.7%と推計され、排出係数が改善された場合には、現在の中期目標である基準年比△25%の水準も視野に入ります。

また,はこだてエコライフの取り組みなどによる,前項2に記載の削減見込量が100% 達成された場合の2020 (平成32) 年度の温室効果ガス排出量は、現状趨勢シナリオで基準年比 \triangle 24.7%、排出係数改善シナリオでは基準年比 \triangle 41.1%と推計され、いずれも中期目標である基準年比 \triangle 25%の達成が見込まれます。

シナリオ別の削減目標の達成見込についてまとめた結果を表2に示します。

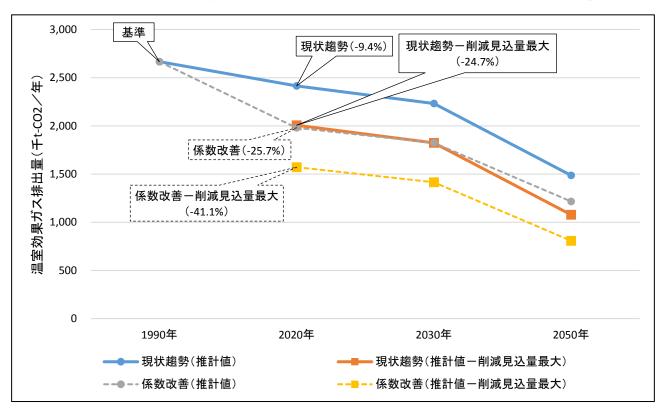


図1 温室効果ガス排出量の将来推計

表2 シナリオ別削減目標達成見込

シナリオ区分	2020 年度排出量	基準年比	目標達成
現状趨勢シナリオ	2,414,815t-C02/年	- 9.4%	×
[図1:水色の線]	2, 414, 8131-002/ +	— 9 . 4 /0	^
削減見込量最大	2,006,466t-C02/年	-24.7%	\bigcirc
[図1:赤色の線]	2,000,4001-002/ +	- 24. 1 /0	O
排出係数改善シナリオ	 1,979,703t-C02/年	-25.7%	\bigcirc
[図1:灰色の点線]	1,979,7031-002/ +	- 20. 1 /o	
削減見込量最大	1,571,354t-C02/年	-41.1%	\bigcirc
[図1:黄色の点線]	1, 371, 3341-002/ 4	-41.1%	

4 2050 年度に向け達成すべき削減目標

2012 (平成 24) 年度の排出実績から 2050 年度の目標値(基準年比-80%) まで直線的に削減すると仮定した場合,中長期的に達成すべき削減目標の水準は,2020 (平成32) 年度に基準年比 18.6%削減,2030 (平成42) 年度に基準年比 39.1%削減となり,これらのポイントを図1に重ねてプロットしたものを図2に示します。

2020 (平成 32) 年度におけるシナリオ別の温室効果ガス排出量推計値と 2050 年度 に向け達成すべき削減目標を比較すると、現状趨勢シナリオを除く3つのシナリオで 基準年比△18.6%以上となり、2050 年度に向け達成すべき削減目標を上回っています。

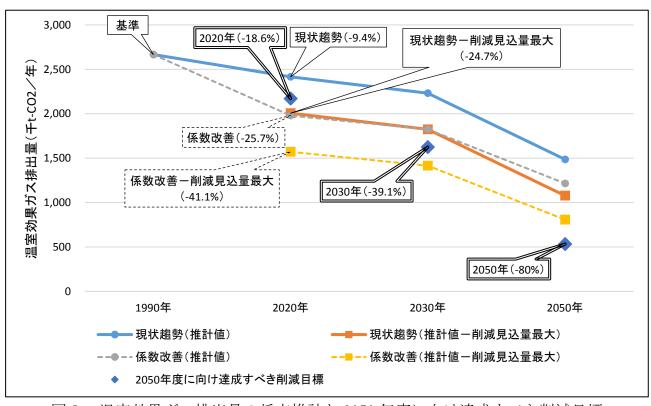


図2 温室効果ガス排出量の将来推計と2050年度に向け達成すべき削減目標